

レベッカ・ハーバーマス ロスト・イン・トランスレーション —ドイツ帝国における植民地スキャンダル

帝国の拡大と植民地化の進展は、一般に植民地社会に関する知の増加をもたらすと考えられてきた。しかし、20世紀初頭のドイツ領トーゴにおけるある植民地官僚の性と暴力をめぐるスキャンダルに関する知の帝國的移動を分析することで、本講演は拡散と蓄積のみならず沈黙もまた植民地をめぐる知のひとつのあり方であったことを示していく。

▶ 日時
2018年2月21日(水)
14:00~17:00

▶ 会場
同志社大学今出川校地・
烏丸キャンパス・志高館SK118

▶ 使用言語
英語・日本語 講演は英語、
質疑応答は日・英逐次通訳

▶ プログラム
14:00 開会の辞(水谷智)／講演者紹介(西山暎義)
14:10 - 15:00 講演(レベッカ・ハーバーマス)
15:00 - 15:45 コメント(永原陽子・水谷智・板垣竜太)
15:45 - 16:00 休憩
16:00 - 17:00 ディスカッション

▶ 問い合わせ先
水谷(smizutan@mail.doshisha.ac.jp)

参加自由

レベッカ・ハーバーマス
Rebekka Habermas



ドイツの歴史学者。2000年よりゲッティンゲン大学教授。社会科学高等研究院(パリ)、モントリオール大学、オックスフォード大学、ニュースクール大学などで客員教授・研究員を歴任。研究領域は社会文化史、犯罪史、宗教史、植民地史。近著に*Thieves in Court: The Making of the German Legal System in the Nineteenth Century* (Cambridge University Press, 2016)、*Skandal in Togo. Ein Kapitel deutscher Kolonialgeschichte* (S. Fischer, 2016)がある。

水谷智

同志社大学グローバル地域文化学部教授。
イギリス帝国史・植民地研究。

西山暎義

共立女子大学国際学部教授。ドイツ近現代史。

板垣竜太

同志社大学社会学部教授。朝鮮近現代史。

永原陽子

京都大学大学院文学研究科教授。南部アフリカ史。